

平成 22 年 2 月 12 日

学術総合センターESCO 事業の提案の選定結果について

1. 選定結果

学術総合センターESCO 事業提案審査委員会（以下「審査委員会」という）で審査した結果、次のとおり選定されました。

(1) 最優秀提案者

(株)エネルギーアドバンス

(2) 優秀提案者

代表者：日本ファシリティ・ソリューション(株)

グループ：ダイダン(株)、三菱 UFJ リース(株)

(3) 選定理由

学術総合センターでは地球温暖化の防止に向けて、教職員、学生を始め、事業者など学術総合センターに係わる者が一体となって二酸化炭素の排出量を前年比 10%以上の削減を目指しており、この目標に向けた行動の一つとして、今般 E S C O 事業の提案を募集いたしました。公募に当たっては省エネルギー化の推進による環境負荷の低減と効果的な光熱費等削減を基本要件として、応募者のノウハウを生かした独自性ある提案を広く求めました。

本 ESCO 事業の提案参加は日本ファシリティ・ソリューショングループと株式会社エネルギーアドバンスの 1 グループ・1 社でしたが、いずれもそのノウハウを十分生かし、効果的な光熱水費等の削減、環境負荷低減を盛り込んだ提案でした。

提案審査は、事前に公表している ESCO 提案募集要項に定める審査方法に基づき各審査委員が、公正かつ客観的に採点を行い、総合評価点が最も高かった株式会社エネルギーアドバンスの提案を最優秀提案とし、日本ファシリティ・ソリューショングループの提案を優秀提案(次点)としました。

最優秀提案に選定された株式会社エネルギーアドバンスの提案では、「ガスコージェネレーションシステム運用改善・熱源設備の高効率化及び運転パターンの最適化」、及び「空調機の変風量制御」、「換気の変風量制御」、「蒸気配管断熱強化」など 7 項目の省エネルギー手法が提案され、この中で学術総合センターが求めた光熱水費削減率及び CO2 削減率 10%を大きく上回る、光熱水費削減率 24.10%、CO2 削減率 27.62%が提案されています。とりわけ運用改善等により光熱水費の削減を大きく実現することにより、E S C O 契約年数は補助金無しで 4 年であり、15 年間の学術総合センターの利益が約 5 億円と大きなことに特徴があります。

優秀提案に選定された日本ファシリティ・ソリューショングループの提案は、光熱水費削減率及び CO2 削減率では最優秀提案を数値的に凌ぐものであり、「自動制御チューニングによる空調負荷低減」、「熱源システムの高効率化とコージェネレーション非発化」、「空調機変風量制御の導入」及び「LED 照明の導入」など 11 項目の多岐にわたる省エネルギー手法が提案され、最優秀に次ぐ優秀な提案であると評価されました。

2.事業者選定の経緯

(1) 審査委員会の設置（平成21年12月）

学術総合センターESCO 事業の事業者からの提案を審査するため、外部委員での審査委員会を設置しました。

審査委員会の委員は次のとおりです。

所属	氏名
地域社会パートナーズ(株) (ReCoP) 代表取締役	委員長：中丸 正
住友信託銀行株式会社 企画部 CSR 担当部長兼年金運用部副部長	金井 司
株式会社日建設計 設備設計部門 設備設計室 主管	佐藤 孝輔

(2) 第1回審査委員会（平成22年1月26日（火））

(3) 第2回審査委員会（平成22年2月10日（水））

(4) 最優秀提案及び優秀提案者の結果通知（平成22年2月12日（金））

3.おわりに

提案者の皆様からは、さまざまな省エネルギー手法のご提案を頂きました。

ここに提案者の皆様の多大なご労力に深く感謝申し上げますとともに、引き続き地球温暖化防止に向けた環境負荷の低減などの環境活動に、より一層取り組まれるようお願いいたします。